

①学校名:	東北文化学園大学 大学院(私立)		②所在地:	宮城県仙台市青葉区国見6丁目45番1号	
③課程名:	健康社会システム研究科健康福祉専攻博士課程前期2年の課程ナースプラクティショナー養成分野				
④正規課程/ 履修証明プログラム:	正規課程(修士)	⑤定員:	8名程度(専攻定員10名)	⑥期間:	2年間
⑦責任者:	健康社会システム研究科長 吉田 裕人		⑧開設年月日:	平成23年4月1日	
⑨申請する課程 の目的・概要:	チーム医療の要として活躍する人材を養成する。医療知識・技術を身につけ、従来の枠を超え患者に真の医療を届ける。大学院を中心に、地域医師団による医学教育を行う。在職しながら学べる機会を提供する。生涯医学教育に取り組む。各種病院での急性期医療から在宅医療まで人材育成の面から支援することを目的とする。				
⑩10テーマへの 該当	1 女性活躍	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護	9 起業
	2 地方創生	4 DX	6 就労支援	8 ビジネス等	10 防災危機管理
⑪履修資格:	看護師免許を有し、5年以上の臨床経験を有している者				
⑫対象とする職 業の種類:	大分類(04)医療・看護・福祉の職業 中分類(023)看護師・准看護師				
⑬身に付けること のできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 周術期(外科、麻酔・集中医療)、救急医療及び慢性期医療に求められる高度な医行為の修得を目標とする。日本外科学会及び外科系関連学会の提案などに従いリスクを伴う医行為の中でも「条件付相対的医行為」を安全に施行できる臨床能力の修得を目指す。併せて、「絶対的医行為」については従来よりも医師に近い現場・立場で学修を深め、「相対的医行為」についても、従来の看護師の能力を上回る安全性・確実性を担保できるように学修を進める。改正保健師助産師看護師法による特定行為に係る看護師の研修制度における21特定行為区分38特定行為すべての学修を進める。				
	(得られる能力) ①臨床検査 身体所見の把握、入院時・術前・術後検査オーダー(血液、生化学検査、胸部X線撮影、CT、MRI実施時期の判断)、読影の補助、動脈穿刺による採血、造影剤の投与及び投与後の患者安全管理、麻酔中の生体情報モニタリング、救急・集中医療患者の不整脈監視・管理、救急患者の身体所見の把握・検査オーダー、救急患者の心電図スクリーニング、救急患者の胸部・腹部などのX線写真スクリーニング、救急患者の超音波検査、救急患者のトリアージ、カテーテル挿入時の介助、経食道超音波検査準備・プローベ挿入アシスト、スワン・ガンツカテーテルによる循環動態測定など ②患者の処置 動脈ライン・中心静脈ラインの確保、事前指示に基づく呼吸管理(酸素投与濃度等の調節)、術野管理(手術器械・臓器などの保持・把持など)、小手術助手、皮膚・軟部組織の縫合閉鎖、不良組織のデブリードマン、抜糸・抜釘、抜管、人工呼吸管理と離脱、気管挿管チューブの位置調節、気管カニューレの交換、ドレーン抜去、透析機器の操作・管理、補助循環の管理・操作、人工心肺準備・操作・管理、大動脈バルーンパンピングの動作管理、一時的ペースメーカー操作・管理・抜去、大動脈バルーンパンピングチューブの抜去、経管栄養のカテーテル挿入・交換、胃瘻・腸瘻の管理、チューブの入れ替え、救急患者の気道確保・人工呼吸、電氣的除細動 など ③患者の状態に応じた薬剤の選択・使用 静脈内への薬物投与、持続薬剤投与量の調節、事前指示に基づく循環管理(循環作動薬等の薬剤投与量の調節、抗不整脈薬投与)、事前指示に基づく代謝管理(インスリン投与量の調節等)、事前指示に基づく輸液管理(総投与量・速度等の調節)、人工呼吸管理下の鎮静、疼痛発熱時の対症療法、便通異常・不眠時の対症療法、副作用監視・出現時の薬剤中止、脱水時の輸液 など ④その他 術前・手術・退院サマリーの作成、麻酔・手術の説明、経過の説明、摘出標本の処理、ICU・術後病棟への患者搬送など				
⑭教育課程:	現代医療看護学特論では、チーム医療の中核を担う存在として、その活動内容や役割、医と看護の倫理、看護実戦で活用できる看護理論、看護管理の知識と技術の習得を目指す。外科医療病態診断学特論では、解剖学的・病理学的・生態学基礎に立って外科手術前後の病態生理を理解できることを目指す。臨床生理学では各種疾患の成因、病態、治療、予後に関わる病態生理を理解するため、昨日系毎にその構造と機能を学ぶ。急性期病態生理についての確、系統的な知識を修得でき、外科医療・急性期における疾患・変化の生理学的側面を的確に把握し、正確な判断をできるようにすることを目指す。内科学総論講義では循環器病・呼吸器病に重点を置き、高齢化社会の中での急性期医療に必要な病態生理学的知識の理解を深め重症患者の治療において必要になる各種治療手段について根本理念を理解する。麻酔・救急・集中医療総合講義では患者の術前状態を把握し、適切で安全な麻酔管理と術後管理を行うために必要な麻酔と集中治療・医療安全について学ぶ。フィジカルアセスメントでは急性期患者の病態の変化に伴う身体所見を的確に系統的に評価する基礎を修得し、外科治療において必要な検査・処置を迅速に計画できる技術を学ぶ。臨床薬理学では急性期に用いる薬剤についての確に系統的な知識を修得し、外科治療において必要な薬物治療を迅速に計画、投与量の調節することを目指す。現代地域医療総合講義では地域医療をめぐる体制、政策、評価法、方略、地域医療・保健活動を縦横に展開し、発展させることができる能力を得るための知識を修得する。外科治療学総合講義Ⅰでは消化器外科を中心として疾患の徴候・診断・治療について系統的な知識を修得し、術前の検査データの判断とその総合的判断から診断に至る思考過程を学ぶ。外科治療学総合講義Ⅱでは脳神経病学、心臓血管外科及び整形外科学的知識を学び症例提示から救急疾患、重症疾患や外傷などで複数の分野にまたがる治療を要する患者の病態把握する知識を学ぶ。ライフサイクル医療では妊娠・誕生から成長・老化に至るまでライフサイクルに特有の代表的な疾患と病態を連続的に学び、系統的な知識として修得する。外科治療学特別実習では医療チームの一員であることの自覚をもって、指導医師の指示のもと自ら実施する医行為の修得を目指す。麻酔・救急・集中医療特別実習では麻酔・集中治療および救急医療に求められる高度な医行為の修得を目標とし、指導医師の指示のもと自ら実施する医行為の修得を目指す。				
⑮修了要件(修了授業時数等):	30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し審査に合格する。ナースプラクティショナー領域の科目を全て修得すること。				
⑯修了時に付与される学位・資格等:	学位:修士(健康福祉)		資格等:特定行為に係る看護師の研修制度の研修修了認定(修了証) 日本NP教育大学院協議会認定のNP資格審査の受験資格		
⑰総授業時数:	53	単位	⑱要件該当授業時数:	53	単位
⑲要件該当授業時数	/総授業時数:		100	%	
⑳該当要件	企業等	○	双方向	○	実務家
				○	実地

⑩成績評価の方法:	各講座毎に実施する科目全てが合格することによって合格とし、当該部分の点数を合算して成績とする。特定行為にかかる看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価(OSCE)及び実習における観察評価を行い評価する。
⑪自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。自己点検及び自己評価運営委員会において、本課程の成果の検証や評価を行う。また、当該検証・評価結果については本学ホームページ上において公表する。特定行為管理委員会を組成し、外部委員を含めた委員会を構成する。その中で教育内容、評価方法等の点検・評価をおこなう。
⑫修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了生の就職状況及び実際の活動状況(内容)、雇用状態に関する調査を実施し、本課程における教育内容が学生のニーズに合致しているか検証を行う。
⑬企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 大学院特定行為管理委員会の外部委員として、外部医療機関の医師3名に委託し、教育課程の編成に関する意見を取り入れ、外部意見について課程に反映させていく。 (自己点検・評価) 大学院特定行為研修管理委員会を設置し、その構成員を外部委員に委託し、課程の自己点検・評価を行う際に企業等の意見を取り入れ、外部意見について課程に反映させていく。
⑭社会人が受講しやすい工夫:	木曜・金曜の18:20~21:30、土曜の9:30~15:10に遠隔授業を行い、月1回程度のスクーリングによる集中講義実施している。
⑮ホームページ:	<a href="https://www.tbgu.ac.jp/faculty/graduate/nurse_practitioner">https://www.tbgu.ac.jp/faculty/graduate/nurse_practitioner</a>